

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会

2015年度年次報告書

社会は学生の力を
必要としています

Index

annual report 2015

代表挨拶

P3

2015年のハイライト

P4

国際協力

P6

環境保護

P8

地域活性化

P9

災害救援

P12

その他の事業

P14

研修

P15

キャリアサポートクラブ

P16

協賛一覧

P18

メディア記載一覧

P19

特別インタビュー 復興庁 復興副大臣 長島忠美議員

P20

団体概要

P22

収支報告

P23

代表挨拶

昨年9月10日、関東・東北を記録的な豪雨が襲い、茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊。濁流が住宅に流れ込む、すさまじい様子をマスコミのライブ放送で目の当たりにした方も多かったのではないかと思います。

本協会では、茨城県常総市や栃木県鹿沼市で発生した土砂災害に9月14日から11月2日まで延べ1232名の学生を派遣し、土砂の撤去、家財の運び出し、炊出し等の災害復旧活動を行いました。東日本大震災から5年が過ぎましたが、その間も全国で次々と大災害が発生しているのです。

本協会も発足以来24年目を迎え、国際協力・環境保護・地域活性化・災害救援の4つの活動を柱に昨年までの23年間で1,799事業を実施し、延べ78,796名の学生らが活動に参加しました。

特に、災害救援活動は1993年の北海道南西沖地震の救援活動から始まり、地震・津波・水害・豪雪・噴火・竜巻災害など、54の災害に対し28都道府県75市区町村において計168回の活動を実施し、延べ8,268名が被災地でマンパワーを活かし、被災地に元気を置いてきました。

また、海外でも1999年の台湾中部地震や2004年のスマトラ沖地震、その津波によるインド洋津波災害など、7つの災害に対し6カ国10地域に於いて、延べ583名の

学生が災害救援活動を行いました。ここに挙げた人数は、現地で活動を行った人数ですが、現地には行かず募金活動を行った学生、現地で活動する学生たちを後方支援していた学生もいます。

まさに学生たちは総力戦で活動を行ってきました。これらを経験して社会人となった卒業生たちは、今後、災害発生時、生活する地域において、地域のボランティアリーダーとして活躍してくれるものと確信しております。

それにしても本協会の活動場所は、何らかの問題や課題を抱える国や地域です。そこでは人との交流を通じて本質的な課題を知り、活動を続ける中で、その多くの課題は、ボランティアだけでは解決できない社会構造的な背景があることを知ります。

これらの課題解決には、様々なセクター・業界とのコラボレーション（協働）や、ビジネス的な手法を通して、持続可能な解決策が見いだせるのではないのでしょうか。

特に、地域活性化は、一市町村の問題ではなく、日本全体の人口構造や産業構造の問題でもありません。極論ではありませんが、生産性のない自治体に対して、税金を投入し続けて延命していくことは、これから働く若者に重税という形で負担を強いるという面があることを否定できないのです。

本協会は、多くの自治体と連携して環境保護や地域活性化、さらには災害救援活動を行ってきました。そんな中、一昨年に新潟県関川村と、そして昨年度は静岡県西伊豆町と「地域活性化

及び防災に関する協定」を締結しました。今後も、これまでのように若者が持つマンパワーを活かしたボランティア活動を継続しつつも、若者の大胆な発想と新たにビジネスの手法を使った解決策（ソーシヤル・ビジネス）を模索していかねければならないと考えています。そのような意味からも、これらの課題解決に向けて、若者がソーシヤルビジネスとして挑戦する環境づくりや支援の体制の構築が重要になってくると考えています。

今年度も、「熱意は人を動かし、社会を動かす」をミッションに掲げ、若者の持つパワーと感性を活かして社会に貢献して参ります。皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人

国際ボランティア学生協会

代表理事

下村 誠



2015年のハイライト

社会で活躍できる人材育成を進めました

会員のキャリア支援の仕組みづくり

IVUSAの活動に参加した学生は、ボランティアや研修を通して心身のタフさや数多くの仲間、ステークホルダーと関係を築くコミュニケーション能力を培っています。こうした経験を学生それぞれのキャリアに活かし、社会に還元していくことを目的として、IVUSAでは「キャリアサポートクラブ」を設立しました。

2015年度は新たに就活経験者である4年生や専門家を招いた上で「IVUSA 流就活セミナー」を開講し、就活に対する不安の解消や、実践的なテクニックについて学ぶ機会を提供しました。

また、開催2回目となる「企業×IVUSA マッチングプロジェクト」では、企業10社と3つの自治体に参加し、約70名の学生と様々なプログラムでマッチングを行いました。プロジェクト実施後は、実際に出席企業へのインターン参加や、選考活動を通して内定を獲得した学生もいました。

マネジメント研修を新設

事業を実施する際に必要となる考え方や、人・物・金・情報といった要素をどのようにマネジメントしていくかを学び、チームで仕事をする際に必要となるマネジメント能力を養う研修プログラムを創設しました。

一般会員から、IVUSAの「作り手」であるスタッフ会員になる時（初級）、選挙で選ばれて学生役員になる時（中級）、プロジェクトやクラブのマネージャーや運営執行部になる時（上級）に研修を受講します。

会員の社会へのアクションを応援

会員が新しい企画やプロジェクトを作るきっかけとして、新規事業コンテンツである「夢企画ワールドカップ」を東京・京都で11月に実施しました。コンテストまでには事務局や上級生が企画内容のブラッシュアップをしていきました。

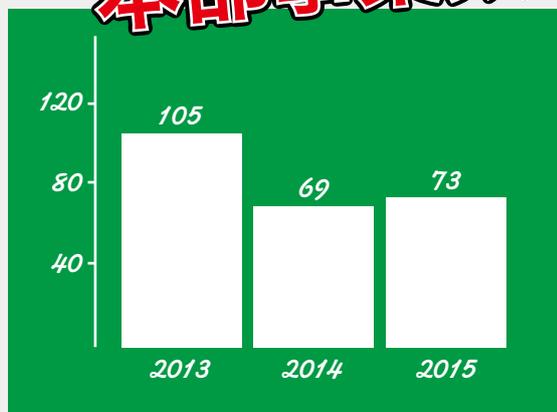
その中で、日本海全域清掃大作戦と千葉県印旛沼クリーン大作戦が2016年度の実現に向けて準備が進んでいます。

会員数・事業参加者数・研修受講者数ともに過去最高

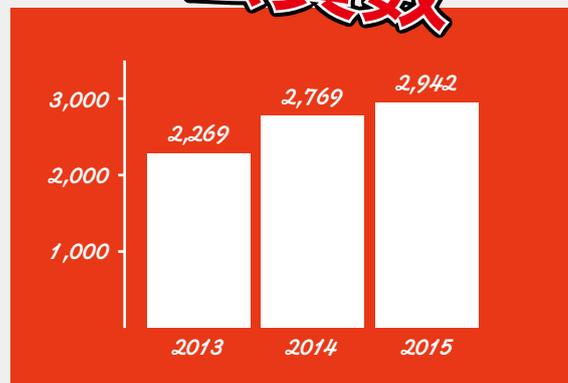
ボランティア活動の総時間は 83,110 時間で、

単純に時給 900 円で計算すると 74,799,000 円分の経済価値を生み出したこととなります。

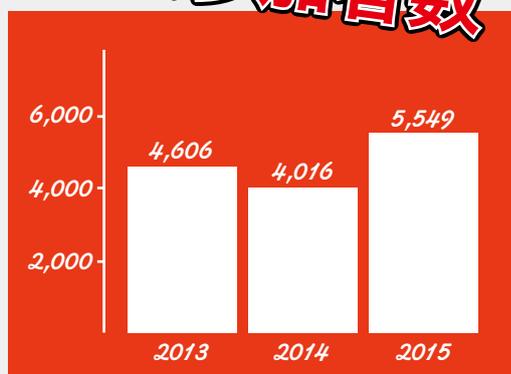
本部事業数



会員数



事業参加者数



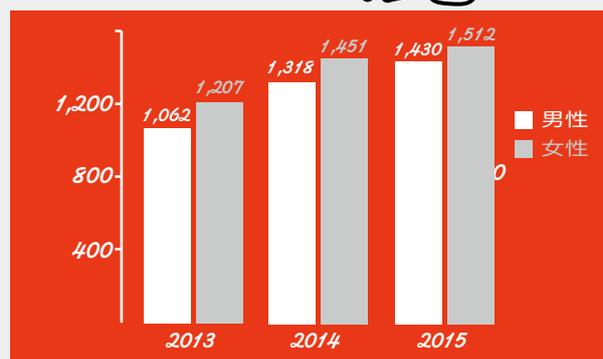
大学・キャンパス数



研修受講者数



男女比



国際協力



現在、人・物・金・情報のグローバル化が進み、私たちの生活の中で、異なる国や民族、文化、価値観に触れる機会が増えています。

また、社会が抱える問題も、一つの国や地域だけのものではなく、貧困、テロや紛争、格差、感染症、環境問題等、国や地域を超えて協力し、取り組まないと解決できないものになっています。

IVUSAでは、学生たちが直接現地に足を運び、「現地の人のために何が出来るか」を真剣に考え、言語や価値観の違いを越え、同じ場所で、同じ時間を共有しながら活動しています。

そして活動を通して、現地の人と親戚のような関係性を築くことを目指しています。

また、現地に赴くだけでなく、募金活動やイベントを通して国内でも様々な支援活動を行い、多くの支援者の方の気持ちを現地に届けています。

Pick UP

第7次カンボジア 学校建設活動

2015年8月30日から9月10日までの12日間、学生67名、事務局員1名の計68名で第7次カンボジア学校建設活動を実施しました。

9月1日から5日間が建設活動でした。今回建設する学校は5教室ある校舎です。

作業内容はセメントを作り、レンガ造りの校舎の壁に左官作業をし、それが終わると白と黄

色のペンキで壁を塗るといふものでした。

最初のうちは慣れない作業に学生たちは苦戦しており、現地の大工さんとのコミュニケーションが上手くいかず作業効率がなかなか上がっていきませんでした。

それでも作業の上手い学生が他の学生に教えるなど工夫しながら次第に作業効率を上げることができました。大工さんとのコミュニケーションは難しい場面が多々ありましたが、通訳の方やカンボジアの学生を介して作業のコツを大工さんに聞きコツや作業の順番を相談していました。

また、作業が進むにつれ身振り手振りでコミュニケーションが取れるようになりました。厳しい作業スケジュールでしたが私たちの5日間ですべて完成させたいという思いも伝わり、日がたつにつれ隊員、カンボジアの学生、通訳の方、大工さんの一体感が生まれていきました。

9月3日は、以前IVUSAが建設したプレイコイ小学校で空気砲作りとシャボン玉作りの企画をしました。子どもたちに科学の面白さを知ってほしい、楽しく勉強して欲しいという思いからこの企画が生まれました。2つの企画両方とも子どもたちは楽しんでくれました。この企画を通して学生たちに子どもたちの通う学校を作りたいという思いが高まり、以前建てた学校を見て、自分たちも完成させようと自分たちを鼓舞しました。

式典終了後、昼食を挟んで子どもたちと西伊豆町の方たちからいただいた物資を使って絵を描く企画で、大きな白い布に虹と夕日と絵を学生と子どもたちが協力して描きました。

また、西伊豆町の方からはサッカーボールもいただき、校庭で元気よくサッカーボールを追いかけている子どもたちもいました。企画の最後に子どもたちに、「子供たちの未来へ」を合唱しました。完成させた学校を見ながら、子どもたちの笑顔を見ながら、学生たちは自分たちのこれまでの道のりを思い起こしていました。

この建設活動は緑の地球ネットワークの藤原國雄さんをはじめとする支援をしてくださった方がいたからできた活動です。支援者の方々は深くお礼申し上げます。



第2回フィリピン減災・環境保護活動

日時：2016年3月1日～10日

活動場所：ヌエバエシハ州ラオー市

参加人数：30人

活動内容：2015年11月の台風ランドで被害を受けた用水路の復旧

エコブリックス（ゴミをペットボトルに詰め、堤防の材料などとして再利用できるようにするためのもの）

道路建設

防災に関するワークショップ

カウンターパート：Binhi ng Kapayapaan, KADRE Cooperative



第9次インド住宅建設活動

日時：2016年2月23日～3月8日

活動場所：インド共和国ケララ州ペルンパラン島、バリカビュー市アムリタプリ

参加人数：59人

活動内容：ペルンパラン島での貧困層に対する住宅建設活動

島民の生活状況を把握するためのアムリタ大学学生とのフィールドワーク

アムリタ大学学生との意見交換会と交流会

カウンターパート：MA.Mah, アムリタ大学



第7次カンボジア小学校建設活動

日時：2015年8月30日～9月10日

活動場所：カンボジア王国コンポンチャム州ストントラン郡ブレイコ区ミヤック村

参加人数：67人

活動内容：ミヤック小学校建設、授業の実施

カウンターパート：KHJ Construction Co. Ltd

環境保護

今日、人類は生活の利便性と引き換えに、地球温暖化や砂漠化、生態系の破壊など多くの環境問題を抱えています。大量生産・大量消費・大量廃棄を前提にした社会のシステムや私たちのライフスタイルを見直し、「持続可能な開発」を進めていくことが求められています。

IVUSAでは、国内の身近な場所から中国や韓国など国境を越えた地域まで、様々な場所での植林、森林整備、生態系の保全、河川・海岸の清掃などの活動をしています。

学生の行動力やマンパワーを活かした活動だけでなく、「捨てる心より、捨てない心」をモットーに地球環境保護への啓発活動も行っています。

人と自然が共に生きるために、環境が悪化している原因を理解し、活動に参加した学生と様々な地域の方との交流や対話を通じて、学生が出来ることを考え、活動から運動へ発展させていきます。



琵琶湖外来水生植物 除去大作戦2015

2015年9月11日から13日にかけて、滋賀県琵琶湖南部の大津市、草津市、守山市にてIVUSA学生約400名で特定外来生物オオバナミズキンバイの除去活動を行いました。活動の結果、初期群落を中心に除去地点数1065ヶ所、除去面積4308㎡、総重量42トンの特定外来植物を除去することができました。

また9月19日、20日には、この問題の周知活動の一環として、「FM Revolution」の西川貴教さんが主催となって、琵琶湖の環境保全を目的として開催されている野外音楽イベント「イナズマロックフェス」に展示ブースを出展しました。

ブースでは、琵琶湖の恵みや特定外来生物オオバナミズキンバイの問題、そして琵琶湖外来水生植物除去大作戦についての展示をしました。

後援

琵琶湖外来水生植物対策協議会

協力

滋賀県、大津市、草津市、守山市、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、独立行政法人水資源機構、もりやま芦刈園、認定NPO法人びわこ豊稗の郷、滋賀県



立武道館、滋賀県立琵琶湖博物館、滋賀県南郷水産センター、瀬田町漁業協同組合、志那漁業協同組合、山田漁業協同組合、玉津小津漁業協同組合、近江鉄道ゆうグルーブ、株式会社平和堂、一般社団法人滋賀県トラック協会、水のめぐみ館ウオーターステーション琵琶、石山寺観光駐車場、大津プリンスホテル（敬称略・順不同）

協賛・寄付

滋賀銀行、赤穂化成株式会社、株式会社ユタカメイク、株式会社伊藤佑、太陽工業株式会社、西澤千春（敬称略・順不同）

同時開催

第6回オオバナミズキンバイ除去大作戦（参加団体）認定NPO法人びわこ豊稗の郷（事務局）小津自治会、新守山川を美しくする会、玉津小津漁業協同組合、守山市役所互助会

助成（イナズマロックフェス）

公益財団法人平和堂財団夏原グラント

※オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウは環境省より特定外来生物に指定されており、その栽培、保管、運搬、輸入等取り扱いは規制されています。IVUSAは琵琶湖外来水生植物対策協議会の構成員であり、防除従事者証を受け、本活動を実施しています。また、拡散防止のため、駆除作業マニュアルを作成し、これに沿って除去活動に当たっています。

地域活性化

現在の日本は少子高齢化に伴い、地方の過疎化、地方自治体の財政逼迫、農林漁業の後継者不足や地域活動の担い手不足などの問題が深刻化しています。

これらの課題に対してIVUSAは、地域行事の運営補助、観光・農業・産業振興や環境保全、防災啓発等を通して、地域住民と交流し、地域活性化に寄与してきました。

持続可能な地域づくりが求められている今、今後は上記の内容を盛り込んだ地域連携協定を自治体と締結し、連携強化を図り、周辺自治体や企業などを巻き込んだ広域的な課題解決を目指します。

その手段の一つとして、地域の資源と学生のアイデアを活かしたソーシャルビジネスの開発に力を入れています。

また、近い将来、学生が社会人となって、地域社会の一員になった際に、直面する課題に挑戦できるよう、アクティブラーニングとしての環境整備も進めています。



Pick UP

静岡県西伊豆町と
協定を締結しました

2016年2月26日、16時より旧田子中学校で西伊豆町とIVUSAの協定締結式を行いました。この協定は、地域が抱える課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的としたものです。

西伊豆町からは藤井武彦町長が、IVUSAからは下村誠代表理事が参加し、締結書にサインしました。会場には約40名の地元の方も参加しました。

協定式終了後は意見交換会として西伊豆町4地区のまちづくり協議会の方々より活動内容の報告があり、IVUSAからは今後の事業モデルを提案しました。

IVUSAは、2013年7月に静岡県西伊豆町を襲った豪雨災害被害への救援活動をきっかけに、翌年2014年3月から、町の景勝地である黄金崎での塩害によって立ち枯れの危機にある松の再生事業をはじめとする地域活性化活動をスタートさせました。

2015年度も8月と2月に活動を実施しました(詳細は次ページ参照)



新潟県関川村活性化活動

日時：2015年8月28日～31日
 2016年2月6日～8日
 2016年2月10日～12日
 2016年2月12日～14日

活動場所：新潟県岩船郡関川村

参加人数：345人

活動内容：「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」「七ヶ谷雪ほたるまつり」「えちごせきかわ雪まつり」「大石どもんこまつり」の運営補助、地域の茶の間への参加、関川小学校防災教育での防災教育、村内フィールドワーク、地域の方との討論会、交流会の実施

カウンターパート：関川村、タランペクラブ、関川村商工会議所、大石・山と川に親しむ会



地図で見る活動一覧

環境保護・地域活性化

青森県日本海清掃調査活動

日時：2015年9月10日～15日

活動場所：青森県深浦町

参加人数：10人

活動内容：深浦町の漂着ゴミ状況調査活動と清掃活動
 伝統的の神事御山参詣のお手伝い

カウンターパート：大間越伝統芸能保存会・白神の生き物を観察する会



山形県日本海清掃調査活動

日時：2015年8月21日～23日

活動場所：山形県酒田市

参加人数：8人

活動内容：酒田市本土側と飛島西海岸の漂着ゴミ状況調査活動と清掃活動

カウンターパート：パートナーシップオフィス



山形県日本海清掃事前調整

日時：2015年8月21日～8月23日

活動場所：山形県遊佐町、酒田市飛島

参加人数：8人

活動内容：海岸の視察、宿泊候補地の視察、飛島での漂着ゴミ清掃活動

カウンターパート：NPO法人パートナーシップオフィス山形



横浜市青葉区こどもの国竹林整備活動

日時：通年（10回実施）

活動場所：神奈川県横浜市
 青葉区こどもの国

参加人数：268人

活動内容：園内の竹林整備

カウンターパート：社会福祉法人こどもの国協会



山形環境ワークショップ

日時：2016年3月1日～2日

活動場所：山形県酒田市

参加人数：3人

活動内容：海洋漂着ゴミの実態を学ぶワークショップ
 日本海清掃活動の企画考案

カウンターパート：パートナーシップオフィス



第5回・第6回利島椿産業保全活動

日時：2015年8月1日～9日

活動場所：東京都利島村

参加人数：81人

活動内容：椿林の下草刈りの切っ払い

カウンターパート：株式会社TOSHIMA、利島村役場



長野県飯山市戸狩光の祭典協働活動

日時：2016年3月11日～13日

活動場所：長野県飯山市戸狩地区

参加人数：32人

活動内容：企画、会場設営準備、光の祭典運営スタッフ

カウンターパート：戸狩観光協会、戸狩商工会議所



第1回長野県飯山市飯山雪まつり協働活動

日時：2016年2月11日～15日

活動場所：長野県飯山市

参加人数：99人

活動内容：いいやま雪まつり・かまくら祭りの準備運営補助、交流会
 カウンターパート：飯山商工会議所、いいやま雪まつり実行委員会、かまくら祭り実行委員会



第14回九十九里浜全域清掃大作戦

日時：2015年9月3日～5日

活動場所：千葉県九十九里浜全域

参加人数：285人

活動内容：九十九里浜全域の清掃活動

カウンターパート：千葉県旭市、いすみ市、一宮町、大網白里市、九十九里町、山武市、白子町、匝瑳市、長生村、横芝光町（九十九里地域内10市町村）



静岡県西伊豆町活性化活動

日時：2015年8月14日～17日

2016年2月26日～29日

活動場所：静岡県賀茂郡西伊豆町

参加人数：226人

活動内容：安良里夏祭り、田子港まつりの運営補助、黄金崎の松の再生事業、休耕田でのヤーコン収穫・農地開墾作業、形跡山跡地緑化、協定調印式、交流会

カウンターパート：西伊豆町企画防災課、西伊豆町教育委員会、田子まちづくり協議会、安良里まちづくり協議会、宇久須まちづくり協議会、認定NPO法人緑の地球ネットワーク



滋賀県琵琶湖外来水生植物除去活動

日時：通年（年7回実施）
 活動場所：滋賀県守山市、大津市、草津市、東近江市、米原市、高島市、彦根市
 参加人数：848人
 活動内容：琵琶湖全域に繁殖する外来水生植物（オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウ）の引揚と仮置き場までの運搬。



京都府阿蘇海環境づくり活動

日時：2015年8月27日～29日
 2016年2月22日～25日
 活動場所：京都府宮津市、与謝野町
 参加人数：計189人
 活動内容：日本三景天橋立の砂浜等阿蘇海沿岸に堆積したカキ殻の回収、阿蘇海1周清掃、阿蘇海フェア（阿蘇海環境づくりに取り組む各種団体の事例発表会）の開催、環境学習ワークショップ、交流会
 カウンターパート：阿蘇海環境づくり協会（事務局：京都府丹後広域振興局）、NPO 法人丹後の自然を守る会



新潟県長岡市栃尾地区ふるさとづくり活動

日時：通年（12回実施）
 活動場所：新潟県長岡市栃尾地域
 参加人数：580人
 活動内容：年間を通じて、栃尾地域での地域活性化活動、各お祭りの運営補助、地域養護施設の子どもの交流
 カウンターパート：児童養護施設「双葉寮」、児童養護施設「愛児園」、特定非営利活動法人復興支援ネットワーク・フェニックス、栃尾同住会



岡山県日生諸島活性化活動

日時：2015年9月16日～18日
 2016年3月5日～7日
 活動場所：岡山県備前市日生町鹿久居島
 参加人数：143人
 活動内容：古代体験の郷まほろばの整備活動、日生諸島活性化に向けたシンポジウム、今後の協働計画に関するワークショップ
 カウンターパート：古代体験の郷まほろば



新潟県十日町市活性化活動

日時：2016年2月19日～22日
 2016年3月11日～13日
 活動場所：新潟県十日町市
 参加人数：207人
 活動内容：「十日町雪まつり」、「雪原カーニバルなかさと」の運営補助、地元高校生との協働企画の実施、市立中里中学校2年生の課外授業受け入れと協働作業、ブース・露店出店、交流会
 カウンターパート：十日町市役所中里支所、公益社団法人十日町青年会議所



岡山県備前市活性化活動

日時：2016年3月2日～4日
 活動場所：岡山県備前市内
 参加人数：22人
 活動内容：備前市内の観光に関するモニター
 カウンターパート：備前市



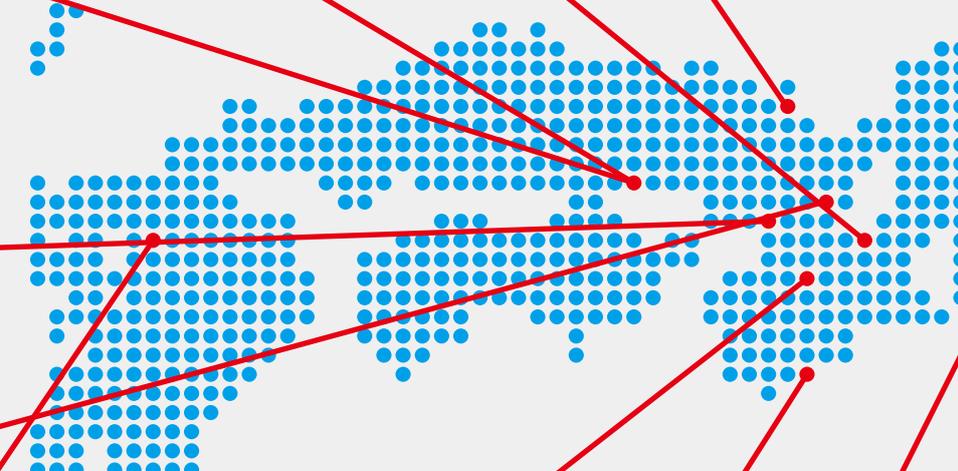
大阪府淀川ワークショップ

日時：2015年5月23日、11月22日
 活動場所：大阪府高槻市
 参加人数：延べ100人
 活動内容：清掃活動、草刈り、工作ワークショップ、意見交換など
 カウンターパート：淀川河川レンジャー



京都北山森林保全活動

日時：2015年6月28日、8月1日、10月25日、2016年1月17日
 活動場所：京都府京都市
 参加人数：延べ42人
 活動内容：金閣寺の裏山に位置する「北山」での森林整備
 カウンターパート：京都府京都市



京都府和束町茶源郷祭り活性化活動

日時：2015年11月7日～8日
 活動場所：京都府 相楽郡和束町
 参加人数：103人
 活動内容：茶源郷祭りの運営補助、地元の方々との交流会
 カウンターパート：京都府相楽郡和束町



第1回長野県森林整備活動

日時：2015年8月7日～8月9日
 活動場所：長野県長野市、信濃町
 参加人数：100人
 活動内容：森林整備治水溝の整備（下草刈り・泥の掻き出し・除伐・伐倒木の運搬）
 カウンターパート：長野県林務部・長野県長野市地方事務所



第3回福岡県星野村活性化活動

日時：2015年10月30日～11月
 活動場所：福岡県八女市星野村
 参加人数：37人
 活動内容：収穫祭の企画・運営、（2012年7月の九州北部豪雨により被害を受けた棚田の修復に携わり、再び米が収穫が収穫出来たことを記念する収穫祭を実施）
 カウンターパート：NPO 法人がんばりよるよ星野村、八女市



三重県熊野市熊野大花火活性化活動

日時：2015年8月15日～19日
 活動場所：三重県熊野市
 参加人数：184人
 活動内容：熊野大花火大会の運営補助、地元の方々との交流会
 カウンターパート：熊野市観光協会



災害救援

豊かな自然に恵まれた日本は、自然災害が多発する国土でもあります。近年の異常気象や産業構造、ライフスタイルの変化により、被災規模、形式ともに多様化、激甚化しています。

IVUSAでは、国内外で発生した自然災害に対して、「学生らしさ」を活かした支援活動を行っています。地域の復旧、復興に向けて汗を流すことはもとより、「自分の暮らすコミュニティだったらどうするのか」と自分に問いかけ、学生自身が当事者意識を持って支援活動するように心がけています。

これは、将来自分が被災したときに、いち早く被災者から支援者となる地域コミュニティのリーダーを一人でも多く育成するためです。そして、強くしなやかなコミュニティづくりを目指します。



Pick UP
**関東・東北豪雨
 災害救援活動**

2015年9月10日に日本列島を横断した台風18号は日本海で温帯低気圧に変わりました。その時、日本列島の東に台風17号があり、この二つの台風に挟まれた西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となり、茨城県常総市の鬼怒川や宮城県大崎市の渋井川が堤防決壊するなど、関東から東北にかけて未曾有の広域水害となりました。

この大雨による被害状況は、人的被害が3県で死者8名、11県で重軽傷者79名。住家被害が16県で全半壊、一部損壊含め4,021棟、床上、床下浸水被害12,145棟。

特に鬼怒川が決壊した茨城県常総市では全半壊3,886棟、浸水被害3,246棟(住家のみ)という甚大な被害でした。(10月2日発表、総務省消防庁第34報より)

このような状況の下、IVUSAは、社会福祉法人常総市社会福祉協議会からの要請を受け、9月14日～11月2日の間、茨城県常総市、栃木県鹿沼市で



復旧支援活動を実施しました。尚、この活動は公益財団法人車両競技公益資金記念財団のご支援を受けて行われました。

第1期

常総1次隊 9月14日～19日 延べ557人
 常総2次隊 9月23日～27日 延べ119人
 常総3次隊 10月2日～4日 延べ90人
 鹿沼隊 9月15日～18日 延べ14人
 延べ人数合計…780人

【活動内容】

・茨城県常総市、栃木県鹿沼市において、被災家屋での土砂の撤去や家財の運び出し。

・茨城県常総市にて在宅避難者を中心にした炊き出し、戸別訪問によるニーズの吸い上げ等の被災住民からの要請に応じた活動を実施。

【活動成果】

茨城県常総市

- ・炊き出し約2,500食(9月15日～18日の昼夜計8食)を水海道駅近くの市民広場にて提供
- ・水海道地区約400軒、若宮戸地区40軒のニーズヒアリング
- ・78件の作業完了
- ・水海道地区、若宮戸地区、石下地区の住宅の床あげ、土砂のかきだし、もぐり作業、

洗浄、消毒が主な作業となりました。

栃木県鹿沼市

- ・2件の依頼ニーズを完了
- ・家財出し、床板はがし、石灰撒き、がれきの撤去

・民家の一次ニーズが落ち着き、畑などのニーズに移行したため、以降は茨城県常総市の活動に合流した。

第2期

- 常総4次隊 10月9日～11日 延べ167人
- 常総5次隊 10月16日～17日 延べ71人
- 常総6次隊 10月25日～26日 延べ35人
- 常総7次隊 10月30日～11月2日 延べ179人
- 延べ人数合計…452人

【活動内容】

- ・茨城県常総市において被害家屋での土砂の撤去や家財の運び出し。
- ・ボランティアセンターに上げられたニーズの完遂。
- ・7次隊にて一般ボランティア約200名を受け入れ、学生が現場リーダーとなり共に作業を行いました。

【活動成果】

- ・73件の作業完了
- ・水海道地区、若宮戸地区、小保川地区、原

宿地区、平内地区、石下地区、三坂地区の住宅の床上げ、土砂のかきだし、もぐり作業、洗浄、消毒、壁はがし、酒瓶の洗浄が主な作業となりました。

宮城県山元町震災復興支援活動

日時…2015年8月21日～25日

活動場所…宮城県亘理郡山元町

参加人数…116人

活動内容…IVUSAファームの草刈り、瓦礫や切り株の除去、土ならし、井戸堀2か所、公園などの草刈り、笠野地区の側溝内の泥だしなど地域ニーズ活動

カウンターパート…普門寺、お寺災害ボランティアセンター、山元町震災復興土曜日の会



宮城県山元町震災復興支援活動

日時…2015年10月31日～11月2日

活動場所…宮城県亘理郡山元町

参加人数…21人

活動内容…IVUSAファームヘラベンダーと4種類のローズマリーの植え付け、青巢稲荷神社秋祭りの手伝い

カウンターパート…普門寺、お寺災害ボランティアセンター、土曜の会、青巢稲荷神社

東日本大震災復興支援活動

日時…2016年3月8日～12日

活動場所…宮城県亘理郡山元町、石巻市、気仙沼市

参加人数…109人

活動内容…IVUSAファームヘラベンダーの植え付け、ビニールハウスの設置、竹灯籠の作成、気仙沼市合同慰霊祭運営補助、山元町追悼式典運営補助

カウンターパート…普門寺、お寺災害ボランティアセンター、土曜の会、気仙沼市、みらいサポート石巻



その他の事業

IVUSAでは、国際協力、環境保護、地域活性化、災害救援の4つの事業以外にも様々な事業やプロジェクト、イベントを行っています。
それぞれのクラブごとで地域に根ざした活動も積極的に行っています。

沖縄県戦没者遺骨収集事業

日時：2016年2月15日～22日
活動場所：沖縄県糸満市
参加人数：161人
活動内容：沖縄県内戦没者の遺骨収集作業・慰霊事業、沖縄県戦跡視察、現代版組踊「北山の風」の鑑賞
カウンターパート：国吉勇氏、浜田哲二氏、浜田律子氏



世田谷区市民活動支援コーナー運営

日時：通年
活動場所：東京都世田谷区
参加人数：事務局3名、アルバイト8名で対応
活動内容：市民活動支援コーナーの、貸出スペースや印刷機材の貸し出しなど管理運営
カウンターパート：公益財団法人せたがや文化財団（委託元）



京都府京田辺市学習支援事業（スタサポ）

日時：2015年4月1日～2016年3月31日 延べ85回
活動場所：京都府京田辺市
参加人数：延べ376人
活動内容：生活困窮世帯の子ども19人に対する学習支援
カウンターパート：京田辺市健康福祉部社会福祉課



ちよだボランティアセンター

『夏休み体験ボランティア in ちよだ』運営受託
日時：2015年4月～9月
活動場所：東京都千代田区
参加人数：10名
活動内容：広報協力、事前研修、活動中のヒアリング、報告書作成等
カウンターパート：千代田区社会福祉協議会ちよだボランティアセンター（委託元）

コミュニティFM向け防災ラジオ番組の配信

日時：通年
活動場所：東京都世田谷区
参加人数：5名
活動内容：大学生が防災ラジオ、「はじめました」の企画・運営（全国48局のコミュニティFMで週1回30分番組を放送）
カウンターパート：株式会社ジェイククラブ

小田原ツアーテーマチライフセービング活動

日時：2015年11月21日～22日
活動場所：小田原市周辺
参加人数：4人
活動内容：ウォーキング大会の救護補助
カウンターパート：日本赤十字社

安全ネット八王子の運営サポート

日時：通年
活動場所：東京都八王子市
参加人数：40名
活動内容：障害を持つ子どもとの交流や遊び場の提供
カウンターパート：安全ネット八王子



日本語就学生との交流会

日時：2015年9月25日、2016年3月18日
場所：東京都港区、渋谷区
参加人数：延べ24名
活動内容：青山国際付近の散策（神社やお寺など）
カウンターパート：青山国際株式会社



硫黄島戦没者遺骨収集活動

日時：2015年7月1日～15日、11月25日～12月9日、2016年1月13日～1月27日
活動場所：東京都硫黄島
参加人数：6人
活動内容：硫黄島内戦没者の遺骨収集作業・慰霊事業
カウンターパート：厚生労働省（委託元）



研修

I V U S A では様々な国や地域で、異なった価値観や考えを持った人々と共に活動を行います。活動をより良いものにするためには、私たちが行う活動の背景にある社会的課題を知り、多種多様な人々とのコミュニケーションの仕方を学び、万が一のことがあった際に対応できる応急救命などのスキルを身につけておくことが必要不可欠です。

そのために、I V U S A では総合的コミュニケーション講習、社会理解講習、危機対応講習、マネジメント研修の4種類の研修を初級、中級、上級の3段階に分けて実施しています。そして、研修を通して得た価値観や知識、感取したものを活動の場で活かし、その場で得た経験を再度研修に落とし込むサイクルを作ること、成長につなげることができると考えています。

この研修と活動の実践の繰り返しで、社会で将来活躍できる人材の育成を目指しています。



危機対応講習

(CMT=Crisis Management Training)

この社会に存在するすべての危機を回避することは不可能です。しかし、この危機の存在を「知る」ことで、「予測」が生まれ、予測から「対応」が生まれます。この危機対応によって、危険を回避し、被害を最小限にとどめることは可能です。北海道南西沖地震の救援活動をはじめ、過去20年以上にわたる災害救援活動の現場で培ったノウハウ・知識・安全管理という考えを元に、誰もが身につけておくことが必要と思われる応急救命措置や身の回りの危機に対処する方法を学びます。

受講人数・延べ2154人

社会理解講習

(SRT=Society Reflect Training)

自分たちが生きている社会がどのような課題を抱えているのかを知るとともに、課題解決のために自分たちに何ができるかを考える場を提供します。初級はボランティアの入門的な内容で、中級は環境保護、地域活性化、国際協力の三つの分野があり、自分が行きたいプロジェクトの分野の中級講習を受ける必要があります。

受講人数・延べ3263人

総合的コミュニケーション講習

(HRT=Human Relations Training)

自己理解・他者理解を深め、相手の考えや感性を知ること、チームで計画を進め



ることを通して、コミュニケーション能力を身につけるとともに、「サービスの受け手側」から「サービスの提供者側」へのマインドセット（心構え）の転換を図ります。

HRTでは他の研修と異なり、初級、中級、上級が前期、後期に分かれています。前期は必須となり、後期は希望者が受講することができます。

受講人数・延べ3733人

マネジメント研修

事業を実施する際に必要となる考え方や、人・物・金・情報といった要素をどのようにマネジメントしていくかを学び、チームで仕事をする際に必要となるマネジメント能力を養います。

各種研修合宿

日時・2015年6月13～14日、20～21日、27～28日、12月26～27日、2016年2月24～25日、27～28日

活動場所・友愛の丘（京都府城陽市）、京都府立るり深少年自然の家（京都府南丹市）、神奈川県立足柄ふれあいの村（神奈川県足柄市）、滋賀県希望が丘文化公園（滋賀県）、ホテル光風閣くわるび、他東京都内・京都府内の大学

参加人数・延1684人

活動内容・各種研修の実施

キャリアサポートクラブ

IVUSAの活動に参加した学生は、ボランティアや研修を通して心身のタフさや数多くの仲間、ステークホルダーと関係を築くコミュニケーション能力を培っています。こうした経験を学生それぞれのキャリアに活かし、社会に還元していくことを目的として、IVUSAでは「キャリアサポートクラブ」を設立しました。

2015年度は多くのアドバイザーに、就活講座の講師やイベントサポートでご協力いただきながら、研修や講座、マッチングイベントなど様々な事業を実施してきました。



キャリア支援の全体像

①自分の「軸」をつくる

ファーストキャリアの選択においては、まず自分自身が「どういった人生を歩みたいか?」、「将来成し遂げたいことは何か?」といったライフプランやキャリアプランが大切になっていきます。IVUSAでは2・3年次の学生を対象に、理事やアドバイザーが就活を始める上での前提となる自己分析の講座を実施しています。

②企業と対話し、社会を見つめる

就職活動では、様々な業界・企業から自分の務める会社を選択することになります。自身にあった企業に出会うためには、様々な企業と「接点」を持ち、社会への理解を深めていく必要があります。そのために、業界・規模に縛られず多くの企業を誘致したマッチングイベントを企画しています。

このイベントを通して、出展企業へのインターン参加や、選考活動を通して内定を獲得した学生もいました。

③実践的スキルを身につける

相次ぐスケジュールの変更等により多様化する就職市場において自身に納得感のある活動を行うことを目的として、アドバイザーによる講座を定期的に行っています。エントリーシート対策や模擬面接など、その時期に応じて求められている内容を提供しています。

IVUSA キャリアサポートクラブ



アドバイザー紹介

高尾悠人（たかしまゆうと）氏

慶應義塾大学法学部政治学科卒。株式会社電通に入社した後、教育分野へキャリアチェンジ。教育系ベンチャー企業のガクを経て独立。現在は、株式会社カイクを設立し、新卒学生向け就職活動情報サイト「MyCareer web」の編集長とキャリアサポートスクール「MyCareer」のスクール長として活動中。最新最強の面接・自己PR・グループディスカッション（成美堂出版）や、就活の本質（泰文堂）など著書多数。



高橋佑樹（たかはしゆうき）氏

慶應義塾大学法学部政治学科卒。グローバル消費財メーカーのプロクター・アンド・ギャンブルジャパン株式会社に入社後、教育系ベンチャーの株式会社ジャパンビジネスラボに転職。2014年に代表取締役としてCentral Figure 株式会社を設立し、人材「共育」事業を展開。組織に改革を起こす、「すごい会議」のコーチとしても活動中。



参加企業インタビュー

キャリアサポートクラブのイベントを通して、マッチングが成立した企業にインタビューを行いました。

第一三共株式会社



第一三共株式会社
人事部 人材開発 G
嶋 雅治 氏

◆求める人物像

人としての誠実さや情熱をベースとし、目標を設定した上で、困難に立ち向かいながらも行動に移し乗り越えていく「個の力」と、その持ち味を發揮しながら、他者と関わりあつてチームに貢献していく「組織の力」を弊社社員には求めています。

◆IVUSA 学生の印象

率直な感想は「ピュアで誠実な人が多い」という印象です。弊社の様な製薬業界で働く上では、人としての根っこの部分で「社会に貢献したい」という精神が特に必要となっていきます。自由に過ごせる学生生活の中で、ボランティアを通して人のために汗を流し、また多様な人種とコミュニケーションを取ってきた経験は非常に貴重だと思えます。

◆学生に向けてメッセージ

自分の生き方を考えることが就職活動です。「人に貢献したい」、「何かの役に立ちたい」と考え、行動する、皆さんの成長に期待をしています。是非、学生生活の中で主体的にチャンスをつかみ取り、多様な人種と関わりながら、素晴らしい経験を積んでください。

株式会社星野リゾート



星野リゾート
グループ人事ユニット
矢島 明音 氏

◆求める人物像

星野リゾートが採用に求めるのは「個性」です。これまでの経験や暮らしの中でどんな興味や考えを持ち、今があるのか。この先どうなりたいのか。そういった1人1人の「個性」を活かしながら日々の仕事に取り組むことで、チームとしてさまざまなアイデアが生まれ、組織や施設の進化へとつながっていくと考えています。そのような意味で「様々な価値観を持った人が共生するチームを形成し、社会問題の解決を目指す」というIVUSAの活動理念には深く共感しています。

◆IVUSA 学生の印象

強い成長意欲をお持ちの方たちだと思えました。相手に喜んでもらうためにどうしたらいいのか、自ら考え行動する姿勢は、IVUSAでの活動を通じて培われたものであると感じられます。様々な問題を自分事として捉え、解決に向けて意欲的に挑戦する姿勢を感じました。

◆学生に向けてメッセージ

ぜひ学生時代は今しかできないことをたくさん経験し、自分らしさを磨いていってください。就活生のみならず自分のありのままの個性を活かせる場を将来見つけられることを、私たちも願っています。

2年生会（2年生向けキャリア研修）

日時：2015年10月3日（東日本）、10月17日（西日本）

参加人数：計98名

講師：風間 穂氏（IVUSA 理事）

内容：ライフプラン・キャリアプランを考えるワークショップ

IVUSA 自己分析セミナー

日時：2015年10月12日、月1回程度

参加人数：各20名前後

講師：キャリアサポートクラブ4年生チーム

内容：就活体験談、自己分析ワーク、座談会など

企業×IVUSA マッチングプロジェクト

日時：2016年1月16日

活動場所：京橋区民プラザ

参加人数：96人（参加団体担当者、参加学生の合計）

活動内容：ブースごとに分けての出席団体紹介

人事担当者に参加学生の懇親会

参加団体：第一三共株式会社、プルデンシャル生命保険株式会社、三菱UFJ不動産株式会社、株式会社インテリジェンス、株式会社星野リゾート、株式会社APカンパニー、株式会社さなる、株式会社IBJ、株式会社ベネッセスタイルケア、株式会社TOSHIMA、静岡県西伊豆町、新潟県関川村、新潟県十日町市（順不同）

実践就活講座

日時：2016年1月13日、月1回程度

参加人数：各10名前後

講師：高島悠人氏（アドバイザー）

内容：就活相談会、エントリーシート対策、模擬面接など

2015年度にいただいた協賛の一覧です。心から感謝申し上げます。

夏プロジェクト

プロジェクト名	企業名	品目	個数
九十九里浜全域清掃大作戦	株式会社マンナンライフ	クラッシュタイプの蒟蒻畑ライト	900個 (30個×30箱)
	カルピス株式会社	カルピスオアシス	240本 (24本×10箱)
		Welch's FRUIT WATER	240本 (24本×10箱)
外来水性植物除去大作戦2015	株式会社滋賀銀行	ポカリスエット	100本
	株式会社ユタカメイク	ブルーシート	20枚
	太陽工業株式会社	フレキシブルコンテナバッグ	20枚
	赤穂化成株式会社	純水 (500ml)	1680本 (24本×70箱)
	株式会社伊藤佑	プリペイドカード	6万円分

春プロジェクト

プロジェクト名	企業名	品名	個数
雪原カーニバルなかさと 2016協働活動	株式会社マンナンライフ	クラッシュタイプの蒟蒻畑ライト	30個×5箱
	エス・ビー・エイ株式会社	Pierre Martinet 野菜スムージー	1,000本
	株式会社松乃井酒造場	甘酒	不明
京都府阿蘇海環境づくり活動	サンジルス醸造株式会社	即席料亭あわせ	80食×2箱
インド住宅建設活動9次隊	株式会社ビジョン	Wi-Fi	10個×15日
	タミワ玩具株式会社	けん玉	60個
		カスタネット	5個×3セット
		だるま落とし	10個
		こま	15個
		こま (妖怪ウォッチ)	12個×2セット
		縄跳び	30個
手塚工芸株式会社	飴	4kg	
井関食品株式会社	飴	500袋	
株式会社誠和コーポレーション	うちわ	100本	
インド住宅建設活動9次隊 フィリピン減災・環境保全活動	NPOサポートセンター	非常食用の缶に入ったパン	480缶

法人会員

 Daichi-Sankyo 第一三共株式会社	 ジェイコグ株式会社	 SINCE 1975 sona 株式会社ソナ	 青山国際教育学院 AOYAMA INTERNATIONAL EDUCATION INSTITUTE	 セレスポ 株式会社セレスポ
--	--	---	---	---

ネパール地震募金活動報告

2015年4月25日に発生した、ネパールの首都カトマンズ北西77km付近のガンダキ州ゴルカ郡サウラパニの深さ15kmを震源とするマグニチュード7.8の地震により、ネパールの人口の約30%にあたる約800万人が被災しました。

IVUSAは、1995年の植林調査、2001年と2008年に2校の小学校建設、2010年から2度の生活支援活動を行ってきました。そこで各地で募金活動を実施し、これまでのネパールでの活動に参加した卒業生からの寄付もお預かりしました。

その合計131万8,605円をネパールでの活動のカウンターパートである「OKバジ」こと垣見一雅さんに義援金として送金しました。

尚、以下のような活動に使用されます。

- ・崩壊・破損した小学校や住居や地域の施設の建て直しや修繕
- ・道路や水道設備など地域のライフラインインフラの修繕や整備・被災により不便になった生活環境の改善に係わる支援
- ・被災前よりも良い社会を目指す復興期の社会作りの取り組みに係わる支援
- ・その他、被災した地域の復旧・復興に必要な資材・消耗品・運搬や手続き等

寄附受領証	
発給日	2015年7月29日
寄附者氏名	第一三共株式会社
金額	1,318,605 円
寄附用途	ネパールの4月25日に発生した地震により被災した地域に対する復興・復興支援として
・被災・破損した小学校や住居や地域の施設の建て直しや修繕	
・道路や水道設備など地域のライフラインインフラの修繕や整備	
・被災により不便になった生活環境の改善に係わる支援	
・被災前よりも良い社会を目指す復興期の社会作りの取り組みに係わる支援	
・その他、被災した地域の復旧・復興に必要な資材・消耗品・運搬や手続き等	
上記以外の用途の使用は致しません。	
受領者	
受領者名	垣見一雅
〒0474-2191	
住所	岩手県北上市見野町
電話番号	0474-2191
上記額かに寄附いたしました。	

2015年度の活動が取り上げられたメディア一覧です。

詳細はIVUSA公式ブログをご覧ください。
http://blog.canpan.info/ivusa/category_5/1

沖縄県戦没者遺骨収集事業



2015年3月30日付
山陽新聞



2015年3月30日付
読売新聞岡山版



2015年5月9日付
朝日新聞



2015年12月16日付
毎日新聞



2015年12月21日付
朝日小学生新聞

西伊豆町活性化活動



2015年8月19日付
静岡新聞



2015年8月25日付
東京新聞



2015年8月27日付
中日新聞



2015年2月27日付
静岡新聞



2015年2月27日付
伊豆新聞

京都府阿蘇海環境づくり活動



2015年8月28日付
朝日新聞



2015年8月28日付
毎日新聞



2016年2月25日付
毎日新聞朝刊



2016年3月10日付
京都新聞朝刊



2015年
8月28日付
産経新聞



2016年
3月5日付
朝日新聞

滋賀県琵琶湖 オオバナミズキンバイ除去活動



2015年12月6日付
京都新聞



2015年12月6日付
朝日新聞



2015年
12月7日付
産経新聞



新潟県長岡市栃尾 ふるさとづくり活動



2016年5月3日付
新潟日報



千葉県印旛沼 クリーン大作戦



2016年6月8日付
千葉日報

熊野大花火大会 活性化活動



2015年8月21日付
熊野新聞

長野県 森林整備活動



長野県信濃町広報誌
「広報しなの」2015年9月号

茨城県常総市 豪雨災害救援活動



2015年10月21日付
日本大学新聞

カンボジア 学校建設活動



2015年9月10日付
KOH SANTEPHEAP DAILY

新潟県十日町市 雪原カーニバル



2015年3月16日付
新潟日報

特別インタビュー 復興庁復興副大臣 長島忠美議員



長島忠美議員

1951年1月9日 新潟県古志郡山古志村に生まれる 東洋大学経済学部卒。

衆議院議員当選4回。本協会特別顧問。

新潟県山古志村村議会議員を経て、2000年山古志村村長に就任。

2004年10月、村長2期目において中越大震災に遭遇、村長として中心被災地山古志村にて住民避難および復興の陣頭指揮にあたる。

2005年3月市町村合併により山古志村村長退任後、長岡市復興管理監に就任、引き続き被災地復興のために尽力。

2005年8月自由民主党より衆議院議員選挙出馬、初当選。

2009年4月からは母校東洋大学の理事長も務める。

2009年8月 衆議院2期目当選。

2012年12月 衆議院新潟県第五選挙区より立候補し、3期目当選。

2012年12月から2013年9月まで農林水産・復興大臣政務官を兼務。

2014年9月より、復興副大臣となる。

2016年5月30日、衆議院第二議員会館で復興副大臣の長島忠美衆議院議員に、下村誠代表理事と砂田和樹第24期学生代表、門田奈実総合企画室室長がインタビューさせていただきました。

2004年の中越大震災の時に新潟県山古志村村長として復旧に当たられた経験から、復興や地域活性化のあり方、そして教育についてなど幅広くお話しいただきました。

職員の一ひとりが村長のつもりで

行政は前例の踏襲や縦割りになりやすい傾向があります。平常時はともかく、今回の熊本地震でもそうですが、災害という迅速な対応が必要となる緊急事態には大きな弊害となります。

山古志村では職員に、「私が責任を持つから、自分自身が村長だったらどう対応するか考えて行動して欲しい」ということを強調していました。自分が村長なら、「それは別の部署の人に聞いてください」とは言えないですよ。

災害時はそのようなりリーダーシップが必要ですが、熊本を見ても簡単ではないのが現状です。

復興や地域活性化のキーワードは「生きがい」

私は復興副大臣として東北のいろいろな地

域を回っていますが、阪神淡路大震災のような都市における災害との復興の仕方の違いを感じます。阪神のように集合住宅型の仮説住宅や公営住宅を作って、もともと広い地域に住んでいた人たちを一か所にまとめると、コミュニティがバラバラになってしまいます。

自分が農業や漁業をやっていた場所に行けるようにするとか、高層型ではなく平屋の住宅にするとかの工夫が必要でしょう。広い住宅だったから二世帯・三世帯と一緒に住んでいたのが、核家族化してしまうケースもあります。

ただ住むための場所を提供するだけではなく、多少コストがかかったとしても、つながりや生きがいを担保していくことが求められます。その人たちが生き生きと暮らすことができれば、その結果医療費や生活保護費を減らすことができるでしょう。

IVUSAは全国各地で様々な活動をしていて、そこで培ったノウハウもあると思うので、それをぜひ地域とマッチングして欲しいですね。地域の人が気付いていない魅力を、外部からの視点で見つけてもらいたいです。

人口が減るから元気がなくなるわけではありません。人口が減っても、そこで元気のあふれる人が動けばいいんです。山古志も人口は減っていますが、住民はやるのがたくさんあってかえって忙しくなっていますよ。結局、一人ひとりが生きがいを持って暮らせる環境をどう作るかが大切なのです。

山村だからこそできること

子どもたちの教育ということ言えば、ゆっくりと成長した方がいい子どもがいま。東京のような大都会の競争社会ではなく、地方でゆっくりといるるな人に触れていくのです。夏休みの一定期間でもいいので、大学生の皆さんのサポートしてもらってそのような体験の場を提供できないかと考えています。

学力と知識だけでは、グローバルな世界を生き残れません。多くの人と触れ合い、社会が抱える課題を肌感覚で学ぶことはその人の人生の土台を作ることになります。



砂田和樹（法政大学4年）

1995年1月26日砂田家長男として生を授かる。幼い頃水泳を習おうとするも溺れたトラウマから器械体操の道へ。全国大会に出場し団体優勝を果たす。しかしあっさりと体操を辞め、中学ではバスケットボール部に入学し、生徒会長なども務める。高校では天文部に入学し天体観測や学校設備のプラネタリウムの上映会等に明け暮れ、部長として過ごす。大学では何事も責任者などやらないようにしようと決意して入学するも、沢山のおもしろい人たちやIVUSAの熱意に魅せられ、IVUSAにのめり込んでゆき、気付いたら3,000人の代表に。現在では様々な人に囲まれながら、時に笑い、時に泣き、叱咤激励を受けながら日々精進する毎日を過ごす。



門田奈実（共立女子大学4年）

1994年10月27日誕生。特筆することのない地味な幼少期を過ごす。小学二年生で露出狂に遭い、早い段階で人生に絶望する。（その後現在まで計5回遭遇）中学生になり剣道部に入学し、3年かけてスポーツと団体競技は向いていないことを学ぶ。高校生になり分かりやすい青春を求めて軽音楽部に入学、高校生活を謳歌する。大学に入学し、なんとなくIVUSAの新歓に参加し、なんとなくIVUSAに入会。安易な入会理由とは裏腹にIVUSAで様々な経験を積み重ねてもらい、現在は総合企画室室長として日々奮闘中。

団体概要

歴史

IVUSAの前身は、1992年に国士館大学で行った「夢企画」。これは、学生たちが創造力を活かし、夢を組み立て実行する。そんな「勇氣」と「冒険心」と「遊び心」を持った夢を募集し、実現性、獨創性、意気込みを含めて大学が審査し、その実行を大学がサポートするというものでした。

学生の「夢」は様々な分野にわたっていましたが、中でも社会に貢献したいという企画が多くありました。



その中の「ラオス小学校建設活動」「多摩川清掃大作戦」「北海道南西沖地震災害救援活動」などに参加した学生たちの、「もっと活動をしたい!」という熱意で、

IVUSAは組織化されました。

国士館大学から始まった組織でしたが、その後口コミで様々な大学の学生がIVUSAを訪れるようになり、会員の増加と共に活動の幅も広がりました。現在では、「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」の4つの分野を軸に活動をしています。

2002年には法人格を取得し、2006年には防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。



IVUSAの理念

「共に生きる社会」を目指して

IVUSAでは、ボランティア活動という手段を使って「共生社会」を目指しています。人・組織・社会を「学生」というしからみの無い立場で繋ぎ、若者の持つ様々な個性や能力・集団が持つパワーを活かして、「熱意は人を動かし、社会を動かす」というミッションを掲げ、様々な活動を行っています。

また、IVUSAという組織の中でも多くの人が存在し、それぞれ生きていた環境や個性によって価値観が違います。それらの価値観を認め合い、活かし合うことで様々な価値観を持った人が共生するチームを形成し、社会問題の解決を目指します。

そのために、IVUSAはコミュニケーションやマネジメント、危機管理を学ぶ研修を提供するとともに、クラブやプロジェクトの運営などの現場経験を通じた社会人(基礎)教育の場を提供しています。

協定一覧

公益財団法人車両競技公益資金記念財団

「災害復旧援護に係るボランティア活動助成事業に関する協定」

韓国・GreenNet 韓国青少年連盟

「日韓合同事業における国際協定」

中国・ハルビン市科学技術協会

「ハルビン市科学技術協会との友好協定」

(株)レスキューナウ

「災害情報ネットワークに関する協力協定」

中国青年国際人材交流中心・各地区青年連合会・共産党青年団各地区委員会

中国緑化事業の助成に関する短期事業提携

千代田区社会福祉協議会

「災害ボランティアセンターへの協力に関する協定書」

新潟県関川村

「関川村と特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会との連携に関する協定書」

静岡県西伊豆町

「静岡県西伊豆町と特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会との連携に関する協定書」

■関西事務局

〒569-1121 大阪府高槻市真上町1丁目1-18
Insist21-3B

電話/FAX 072-601-5109

E-mail ivusa-office@ivusa.com

facebook http://www.facebook.com/npovivusa

Twitter @IVUSA_OFFICE

代表理事 下村 誠

学生代表 池田 慶輔 (日本大学4年)
任期: 2015年4月1日~2016年3月31日

役員 理事12人、監事1人

職員 常勤9人、非常勤5人

会員 約3,000人 (2016年3月31日現在)

■本部事務局

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4
ザ・アゼリアハウスB号棟102号室

電話/FAX 03-6751-2683

2015年度 会計報告

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費・入金収入		
入金収入	4,920,000	
学生会費収入	28,895,025	
その他の会費収入	735,000	34,550,025
2 事業収入		
(1) 国外における初等教育支援や環境保全のための事業収入	26,920,956	
(2) 国内における災害救援・環境保護・地域活性化などの事業収入	91,241,423	
(3) 各種研修・講習会の開催事業収入	25,508,734	
(4) 情報発信・提言事業収入	0	
(5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業収入	2,854,387	146,525,500
3 補助金等収入		
民間助成金収入	10,053,533	
市民活動支援コーナー委託料収入	9,587,422	
その他委託料収入	1,376,651	21,017,606
4 寄付金収入		
一般寄付金収入	2,684,841	
募金寄附金収入	7,351,611	10,036,452
5 その他収入		
利息収入	8,902	
雑収入	3,789	
預り金収入	2,964,031	2,976,722
経常収入合計		215,106,305
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1) 国外における初等教育支援や環境保全のための事業費	39,280,129	
(2) 国内における災害救援・環境保護・地域活性化などの事業費	96,465,188	
(3) 各種研修・講習会の開催事業費	26,207,362	
(4) 情報発信・提言事業費	1,473,978	
(5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業費	11,114,520	174,541,176
2 管理費		
人件費	2,150,122	
賃借費	8,910,150	
旅費交通費	2,330,213	
車両費	1,594,407	
通信費	516,507	
消耗品費	1,879,196	
諸会費	148,000	
租税公課	4,299,397	
支払手数料	233,578	
荷造運搬費	435,748	
会議費	652,951	
慶弔費	246,390	
水道光熱費	919,635	
図書情報費	56,396	
業務委託費	4,501,828	
リース費	396,108	
インターネット関連費	653,514	
法人税、住民税及び事業税	70,000	
雑費	54,190	30,048,330
3 その他の支出		
為替差損	116,735	
預り金支出	2,945,118	3,061,853
経常支出合計		207,651,359
経常収支差額		7,454,946
当期収支差額		7,454,946
前期繰越収支差額		28,731,518
次期繰越収支差額		36,186,464



発行：特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102
Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com